

東京文化財研究所75年史編纂事業（◎情04-09-4/4）

本報告書は、東京国立文化財研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1930（昭和5）年6月に設立されてから2005（平成17）年で75周年を迎えたのを機に、当所の歴史を跡づけ、さらには独立行政法人国立博物館との統合を迎えた2007（平成19）年4月1日までの記録を残すことを目的として、資料収集及びそのデータ化を図り、すでに刊行された「同 資料編」（平成20年3月）とともに当研究所七十五年史とするものである。

同報告書刊行のための所内編集委員は、下記の通りである。
井上さやか、岡田健、川野邊渉、佐野千絵、塩谷純、高桑いづみ、高柳明、田中淳、中野照男、中村明子、中村節子、山梨絵美子

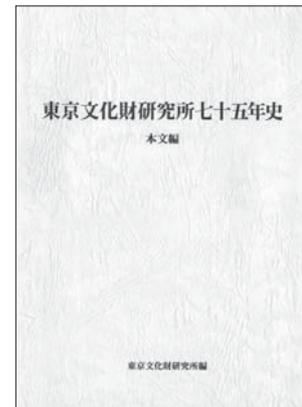
（五十音順、2009年10月現在）

分担執筆者：石崎武志、稲葉信子、井上さやか、江村知子、岡田健、勝木言一郎、加藤雅人、川野邊渉、北野信彦、朽津信明、佐野千絵、皿井舞、塩谷純、清水真一、高桑いづみ、田中淳、津田徹英、土屋貴裕、中野照男、中村明子、中村節子、中山俊介、早川典子、二神葉子、三浦定俊、森井順之、山内和也、山梨絵美子、綿田稔（五十音順）
建物外観等の撮影：城野誠治、鳥光美佳子

「本文編」は、以下の内容で平成21年度に刊行した。（B5版、総ページ607頁、2009年12月25日発行、一部市販）

- I 沿革
- II 管理運営
- III 調査研究
 - 1 企画情報部
 - 2 無形文化遺産部
 - 3 保存修復科学センター
 - 4 文化遺産国際協力センター
- IV 現況

関連資料（関連団体、追想、物故研究員等略歴、東京文化財研究所年表、機構変遷図、参考文献一覧）



所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*◎情05）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（◎情05）の一環として実施した。詳細は、63頁を参照。

平成20年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（◎美04-09-4/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。2002（平成14）年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成20年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成20年版は、下記のような構成をとり、B5版396ページとなった。

2007（平成19）年美術界年史

⑥刊行物 Area19

美術展覧会（企画展、作家展、団体展）

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展）

物故者



『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約75年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は以下の通り398号、399号、400号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



『美術研究』398号（21年度第1冊／2009年8月刊行）

（論文）皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（下）」

（論文）顔娟英（塚本麿充訳）『『日本画』の死
—日本統治時代における美術発展の困難—

（研究ノート）田中淳「試論・『新しい女』と『風船を持つ女』

—萬鉄五郎《風船を持つ女》の制作背景と表現—

（研究資料）津田徹英「脱活乾漆造 菩薩立像」

（研究資料）菊屋吉生、塩谷純「珊瑚会資料集（補遺その二）」

『美術研究』399号（21年度第2冊／2010年1月刊行）

（論文）土屋貴裕「鉄心斎文庫蔵「伊勢物語画帖」について」

（論文）塩谷純「川端玉章の研究（二）」

（研究ノート）江村知子「追憶の色—遊楽図の人物風俗描写に関する一考察—

（展覧会評）「朝鮮王朝の絵画と日本」（江村知子）

『美術研究』400号（21年度第3冊／2010年3月刊行）

（論文）雷玉華、李裕群、羅進勇（濱田瑞美訳）「四川汶川出土の南朝仏教石造像」

（論文）綿田稔「雲谷等顔筆「梅に鴉図」考—名嶋城御成書院から福岡城対面所へ—

（研究ノート）森下正昭「コンテンポラリー・アートに関する美術館の新たな取り組み

—英国テート・ギャラリーとインカのアーティスト・インタビュー・アーカイブ—

（書評）「吉田千鶴子『近代東アジア美術留学生の研究』

—トランスナショナル・アーカイブを想像する—」（朴昭炫）